

血管撮影装置の新しいプラットフォームによるワークフロー効率化の検討

**【目的】** 当院では 2018 年 10 月に Azurion7 (Philips 社) を導入した。以前の装置と異なり、単一点から心臓カテーテル検査に必要な様々なアプリケーション操作、撮影室モニターへの適切なソース管理やレイアウト設定を行うことができる。今回、このプラットフォームによりカテ室において効率的なワークフローが図れているのか検討した。

**【方法】** 新装置導入後と旧装置の連続した症例を対象とし検査時間、手技時間、透視時間、装置表示空気カーマ値などを比較した。また、ワークフロー効率化の評価として診療放射線技師に対してアンケートを実施した。

**【結果】** 全ての項目に対して新装置が良好な値でありワークフローの効率化が示唆された。また、アンケートでは多くの技師でワークフローが良好になったと回答があった。さらに、高度な知識や画像支援が必要であり技師個人のスキルアップにも繋がった回答があった。

**【考察】** 今回の検討で、このプラットフォームを適切に運用する事により被ばくの低減、検査時間の短縮など効率的なワークフローを作り出せたと考えられる。今後も、さらにワークフローの改善やスタッフと良好なカテ室の環境を作り、質の高い検査を提供する必要がある。

**【結語】** 新しいプラットフォームにより効率的なワークフローが示唆された。